

2 年 2 月 25 日

教 育 長 様

代表者 校 園 名 : 大阪市立海老江西小学校

校 園 長 名 : 横田 隆文

校 印

電 話 : 06-6451-3300 F A X : 06-6452-1704

事 務 職 員 名 : 建山 涼

申 請 者 校 園 名 : 大阪市立海老江西小学校

職 名 ・ 名 前 : 指導養護教諭 森川 真理

電 話 : 06-6451-3300 F A X : 06-6452-1704

研究コース	
グループ研究B	
選定番号	211
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)	
531067	

平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇平成31年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	新規研究 (1年目)
2	研究テーマ	<p align="center">養護教諭の専門性を活かした健康教育の研究 —子どもたちが生涯にわたって心身ともに健康な生活を送るために必要な力の育成をめざして—</p>			
3	研究目的	<p>○幼稚園・小学校・中学校・高等学校の幼児・児童・生徒それぞれの発達段階に応じた健康教育を推進する。 ○子どもたちが、生涯にわたって健康な生活を送るために必要な力「心身の健康に関する知識・技能」「自己有用感・自己肯定感(自尊感情)」「自ら意思決定・行動選択する力」「他者と関わる力」を育成する健康教育を推進する。 ○子どもたちが安心して生活を送ることができるための教育活動の基盤となる心身の保持増進を図るための連携及び健康管理のあり方を考える健康教育を推進する。</p>			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。</p> <p>子どもたちが生涯にわたって心身ともに健康な生活を送るために必要な力を身に付けるための、養護教諭の専門性を活かした健康教育の研究を進めた。</p> <p>(1) 地区別校種別共同研究に取組み、今年度は12月13日に次の3つの研究発表を実施した。 ①港区小学校「みてかんがえやってみる」-自ら健康で安全な生活を送る力を育てる保健教育-②大正区小学校「食物アレルギーへの理解を深める保健教育」-正しい知識の習得から思いやりのある行動へ- ③第6ブロック中学校「養護教諭が行う保健教育」-質の良い睡眠をとるために- (2) 大阪市養護教員会の研究部を中心に「チーム学校」現代的健康課題における学校園連携モデルの検討と考察というテーマのもと、1年目の研究を進めた。実態調査アンケートを実施し、その結果を分析、学校園で行っている校内委員会についての現状把握と、外部組織との連携の仕方について考察をした。3月6日の定期研修会で、1年次報告として研究全般に関する共通理解と今後について知らせた後、静岡大学教育学部養護教育専攻教授に「多様性・共生社会に向けての新たな養護実践の創造-養護の本質を活かした個々の子供に寄り添った支援-」の演題でご講演いただき、養護教諭の専門性の向上を図る。(3) 7月12日には「保健室改造計画～子どもと向き合う時間を増やすための整理収納～」9月6日には「人生100年時代の生涯にわたる健康どこで学ぶか、何を学ぶか～医療者から教育者への期待～」という演題でそれぞれ外部講師を招いて研修会を行い、日々の執務に活かした。</p> <p>(4) 全国レベルの健康教育関係の研究会・研修会に参加し、その研修内容を全校園の養護教諭に報告・伝達講習を行い、研鑽に努めた。</p> <p>(5) 各校園での日々の執務の記録から、保健室来室統計データ(保健月報)の集計を、月単位で行い、区やブロックごとに集計し、さらに大阪市全体としての集計及び分析を行い、子どもたちの心身の健やかな成長を支援する手だてとした。以上、この1年間の研究活動を、大阪市養護教員会の研究誌「あゆみ」にまとめた。</p>			

5	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p>			
		<p>養護教諭の全体研修会を年4回実施していて、すでに終了した3つの研修会の事後アンケートは、研修会の充実度についての肯定的な回答は常に90%以上で、平均は98.1%と高い数値になった。7月の研修会では「夏季休業前の良い時期に知ることができてよかった」「2学期からの子供たちに心地よい空間を提供するとともに、自身も気持ちよきは働きたいと思った」などの感想があった。また、9月の研修会では、「健康リテラシーについて改めて考える機会になった」「自分が教育者としてできることをしっかりと取り組んでいき</p>			
		<p>たいと思った」などの充実した研修内容であったことが伺える感想が数多くあった。 また、12月の地区別校種別共同研究発表では「他校の実践を含めた研究を知ることができてよかった」「とても勉強になった。自校での保健指導でやってみたいと思った」「園での子供への指導や保護者啓発に活かしたいと思った」などの感想が数多く見られ、どの研修会も発達段階に応じた健康教育の推進と資質の向上につながったと考えられる。</p>			
		<p>大阪市養護教員会では、今年度より、研究期間を2年と決め、2年間でまとめ上げる研究体制とした。テーマは「チーム学校 現代的健康課題における学校園連携モデルの検討と現状の考察」である。前年度の大阪市養護教員会の研究において、養護教諭の行う健康相談は、実態を考慮した健康相談が行われており、保健室の施設空間や物理的環境に対しても十分な配慮のある対応ができていた。しかし、課題解決に向けた健康相談の連携において、組織全体に向けての情報発信やコーディネートに対しては、課題がみられた。</p>			
		<p>そこで、学校園連携モデルを検討し、課題解決をめざすために、養護教諭のみならず、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、学校医、関係諸機関との連携を充実させ、課題解決への動きを進展させていけるよう、「チーム学校」としての体制を整え、チームをまとめ、明確な目的を共有しながら調整するコーディネーター役としての養護教諭のあり方について検討をしていくことにした。</p>			
		<p>まず1年目は、実態把握のための質問紙アンケート調査を実施し、分析をしっかりと行い、現状について考察をする。そしてその考察結果に基づき、2年目は、学校園連携モデルの検討を行い、多くの困難な健康課題に対して、子供たちの困り感を少しでも解決へと導く方向性や手がかりの一助となる組織やシステムにつながっていくことを願って、取組む予定である。</p>			
		<p>がんばる先生支援事業（旅費）により、複数の全国大会レベルの研修会に参加することが、可能となった。参加した養護教諭により、研修会の中で、伝達講習・概況報告を行った。それらを通して得られた知識や最新の情報を共有し、研鑽を深めることができた。各校園で日々収集している健康観察の結果や保健室来室状況などの保健室データを、毎月、保健月報としてまとめ、健康課題の早期発見に活かしている。さらに、大阪市全体の集計・分析も行い、学校保健のまとめや保健教育の資料などにも活用をしている。</p> <p>《まとめ》</p> <p>1年目の取組として、計画通りに進めることができた。2年目も、計画をしっかりと立て、養護教諭の専門性を高め、資質の向上につながる研究をすすめていきたい。</p> <p>《課題》</p> <p>研修会の参加の仕方や、伝達における資料等に関して、ネットワーク環境の活用についても、今後は、働き方改革の視点で考えていくことも必要ではないかと思う。他の研究組織団体等の現状などからも参考にできることは、していきたい。</p>			
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
		日程	元 年 12 月 13 日	参加者数	約 450 名
		場所	大阪市教育センター		
		備考			